

チンパンジーの新規個体の群れ入れ状況

○深田 梨恵, 山口 進也, 小倉 典子, 脇田 創司
(よこはま動物園)

チンパンジー (*Pan troglodytes*) は, 哺乳綱霊長目ヒト科チンパンジー属に分類される類人猿である。20~100 頭前後の群れで構成し, 離合集散型の父系社会であり, 複雑な社会構造を持つ。野生下では 9~11 歳で雌は群れを移籍するため, 動物園での飼育下においても適齢期になると動物園間での移動が行われる。当園で飼育している 10 頭のチンパンジー (雄 2 頭、雌 8 頭) のうち適齢期となった No. 10: 雌 (2012 年 1 月 20 日, よこはま動物園生まれ) と日立市かみね動物園の No. 14: 雌 (2011 年 2 月 7 日, 日立市かみね動物園生まれ) を同時に移動を行った。No. 14: 雌は, 母親の育児放棄により人工保育にて育ち, 1 歳 4 か月で群れに戻した個体である。

チンパンジーの群れ入れでは, 群れの中で順位の高い雄 (α オス), 順位の高い雌 (α メス), 順位の高い個体を順に檻越しで対面させ, 実際に同居を開始することが一般的であり, この手順に則り実施していった。しかし, 手を出す, お尻を見せる, 口を寄せる, 声を出す等の挨拶行動が見られず同居は困難を極めた。そのため, 2 つのプランを設定し, 時間をかけて同居馴致を行うこととした。

プラン A では, 8 か月をかけ, 当園の群れの様子をガラス越しに見学させチンパンジー同士の関りを学んだ後に α オス, α メスと同居させ, 群れの中で後ろ盾を作って群れに馴染ませる方法を行った。プラン B では, 2 か月をかけ, α オス, α メスに α メスの娘や年配メス, その子供を同居させ順次下位の個体とも同居を試し, 個体間の相性を観察することに重きをおき同居を実施した。2 つのプランを実施することにより, 徐々に群れの他個体とも数頭で同居出来るようになってきており, 今後も全頭合流を目指していく。また, 安全面を考慮し屋内展示場もしくは寝室内での同居を実施しているが, 今後は屋外展示場においても同居を検討していきたいと思う。